

1. 単元名「世田谷 Foodish プロジェクト」
2. 本時のねらい

友達の考えや思いを汲み取りながら、自分たちで作った大蔵大根の魅力を広く伝えられるような世田谷地域料理を考えることができる。

3. 本時の展開 (31/52)

主な学習活動・学習内容	○…指導上の留意点等 評…評価
1. はじめの言葉 2. 司会グループの紹介 C:みんなが納得できるような世田谷地域料理がまとまるようにします。 3. 活動目標・議題の確認 C:今まで心を込めて作ってきた思いを入れて大蔵大根に合った料理が決まるようにしよう。 4. 教師の話	○何のために話し合うのか本時のねらいを黒板に板書し、確認するようにする。 ○今まで考え、開発してきた地域料理を価値づける。本時では自分の意見を言うだけでなく、友達の意見を聞き、より魅力を伝えられるのはどれなのか話し合いをしながら考えられるように助言する。
5. 話し合うこと①「自分が考えるおすすめ料理」 C:私のおすすめ料理は煮物です。簡単で味がしみこむというところで大蔵大根の甘さが最大限に引き出され、地域料理にぴったりです。 話し合うこと②「料理を決める」 C:大根ステーキがよいです。理由は実際に作ってみて、一人でもできたし、世田谷で作った醤油を探せば地域料理になります。 C:味噌汁がよいです。大根の葉も入れて、馬込ニンジンを入れれば、完全な地域料理の完成です。	○地域料理の思いが発表できるようにする。(事前に助言) ○教師は地域料理の観点から話し合いがそれたときに黒板に示したねらいをもとに助言する。 ○友達の意見や思いも聞き、自分の考えと比べながら、全体の折り合いが付くようにしていく。 ○決められない場合は次時に話し合いの続きをするようにする。
6. 決まったことの確認 7. 教師の話 8. 振り返り C:みんなでよりよい世田谷地域料理が決まられてよかったです。よいアイデアができました。次は魅力が伝わるようなネーミングを考えたいです。 C:今日は決めきれなかったもので、この話し合いを生かして、次の時間に考えたいと思います。 9. 終わりの言葉	○友達の考えや思いを聞きながら大蔵大根の魅力が伝わる地域料理を考えられたことを価値づける。 ○友達の意見の良さを相互評価できるようにする。 評 自分と異なる意見を取り入れ、世田谷地域料理を協働しながら考え、決めようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 【思考力、判断力、表現力】(観察・発言・ワークシート)

4. 板書計画

